



森とアースへの
eco
プロジェクト

森とアースへのECO-プロジェクト
令和5年度 実施報告書



天星製油株式会社

全国オイルリサイクル協同組合
森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム

廃油リサイクルから森づくりへ

人類は今、未曾有の危機に瀕しています。それは地球温暖化による異常気象です。コロナ禍の中、各国から矢継ぎ早に経済対策とともに温暖化ガスの排出削減策が発表されました。持続可能な社会というのが本当に可能かどうかは誰にも分らないと思いますが、何が有益なのかをよく考えながら次世代にきれいな地球を引き継ぐように努力することが義務だと思います。

弊社は、廃油リサイクルの専門家として約60年間、資源の有効利用と環境保全に尽くしてきました。廃油をリサイクルして燃料化することで、トータルでの二酸化炭素の排出を削減していることに脚光が当たるようになり、私たちの価値が再認識されるようになってきたことには光栄に思うと同時に時代の変化を感じるどころです。

本プロジェクト「森とアースへのECO-プロジェクト」で社会貢献の一環として平成30年度より参加し、弊社廃油リサイクル事業の収益の一部を、事務局を担う公益財団法人北海道環境財団に寄付をして、全国各地の森づくりを支援してまいりました。自然環境の最上流に対しての働きかけにより豊かな森林の涵養、林業の機能維持が、木々による二酸化炭素の吸収のみならず、森林、河川から海につながる生態系の維持、国土の保全につながることにささやかながら協力させていただきたいと考えています。令和5年度は、先進的な環境・森林保全に取り組む秋田県能代市、静岡県川根本町、三重県大台町、京都府長岡京市、島根県出雲市、福岡県篠栗町の6市町において、植林や間伐等の森づくりを通じた温室効果ガス削減や生物多様性保全の取り組みを支援いたしました。また、脱炭素社会実現に向けた国内外の動きを見据え、森づくり等を通して生じる温室効果ガス吸収量を活用したカーボン・オフセットを実施して、弊社事業活動の脱炭素化にも努めました。

関係各位におかれましても、何卒、ご理解いただくとともに、活動の輪が広がっていくことを祈念しております。

令和6年3月吉日

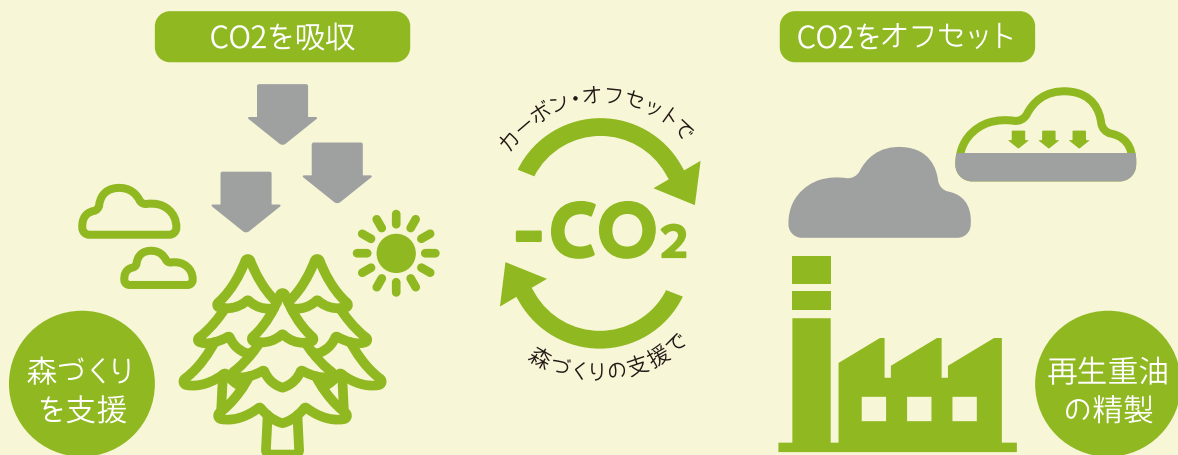
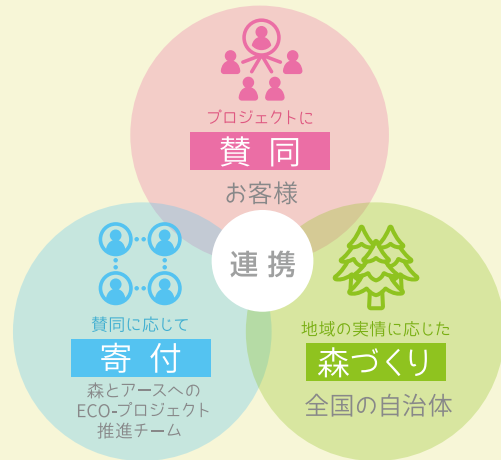
天星製油株式会社
代表取締役 鈴木宏政

森とアースへのECO-プロジェクト概要

廃油の適正処理とリサイクル事業に取り組む企業で構成する「全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム」は、日本各地の森づくりと地球温暖化防止に資する社会貢献事業として、平成28年から「森とアースへのECO-プロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトを「お客様とともに取り組む社会貢献活動」として位置づけ、お客様のご賛同のもと、各社が廃油リサイクル事業の収益の一部を拠出し、脱炭素社会の実現に向けて先進的に取り組む全国各地の自治体と連携して森林保全活動を実施しました。また、森づくりの結果等から生じるCO₂吸収量を活用して廃油リサイクル事業等において排出されるCO₂のオフセットにも取り組みました。

2050年に向けた脱炭素社会の実現を目指して、廃油リサイクル等を通じた循環型社会構築への貢献に加えて、本プロジェクトを通じた森林保全活動の支援や、カーボン・オフセットへの取り組みにより、脱炭素社会構築への貢献に努めてまいります。



日本の森づくりと脱炭素社会の構築に貢献



のしろし 秋田県能代市

本市は秋田県の北西部に位置し、北に白神山地、東に奥羽山脈があり、市の中央を米代川が流れ日本海に注いでいます。平成18年3月に、旧能代市と旧二ツ井町の合併により誕生した人口約5万人の市です。

東西約30km、南北約35km、総面積は427km²で、秋田県の面積の3.7%を占めています。豊かな自然に恵まれ、日本海に面する海岸一帯には、面積約760haの海岸砂防林「風の松原」があり、生活環境を保全し、市民からも親しまれる憩いの場となっています。また、日本一高い天然秋田杉を含む仁鮎水沢スギ希少個体群保護林などもあります。加えて、米代川流域は、古くから天然秋田杉の産地として知られており、木材の加工事業者の数や加工技術の高さから、かつて「東洋一の木都」と呼ばれ、古くから林業・木材産業と共に発展してきた地域です。その歴史は今も根付いており、基幹産業の一つとしての木材産業や木材に関する施設・機関等も多くあります。

市の将来像に掲げている「わのまち能代」には、人と人との“和”、地域資源で活力を生む“環”、未来へつなぐ安心の“輪”、これらの思いを込めています。また、まちづくりの基本理念に「幸福共創」を掲げています。この「幸福共創」という言葉には、“こころ”“からだ”“もの”の3つの豊かさを実感できるふるさと能代を、市民の皆様とともに目指していきたいという思いが込められています。



秋田県能代市の森づくり



本市の森林面積は約2万5千haとなっており総土地面積の約6割を占めています。また、民有林約1万6千haのうち、約1万haは杉人工林で、そのほとんどが原木生産に適した林分であり、成熟した杉資源の宝庫となっています。

一方で、小規模林家が多く、森林所有者の高齢化や地域の過疎化に伴い、所有者不明や森林管理が十分に行われていないなどの課題も抱えています。そのため、森林環境譲与税を活用し、森林の所有者や境界の調査を進めるとともに、意欲ある森林所有者・森林組合・林業事業者への施業等の委託による森林の集約化と施業の共同化を推進しています。また、林業の生産基盤を強化するため、林業専用道等の路網整備も積極的に進めています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 市有林の整備(間伐・枝打)
- 【場 所】 能代市二ツ井町仁鮎地区ほか1地区
- 【面 積】 10.78ha
- 【施業時期】 令和5年7月～同年12月



秋田県能代市長 齊藤 滋宣

能代市長からのメッセージ

この度は、能代市の森林施策に対し、「森とアースへのECOプロジェクト」によりますご寄付を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様方の温かいご支援に心より厚くお礼申し上げます。

近年、地球環境や社会・経済への危機意識を背景として、持続可能な開発目標(SDGs)への関心が高まり、森林・林業・木材利用に関わる活動に注目が集まっています。

本市においても、脱炭素社会の達成に貢献すべく、森林の持つ多面的な機能の発揮とともに、地域の林業・木材産業の活性化・振興につながるよう、さらなる豊かな森づくりに取り組んでまいります。

今後とも能代市をよろしく願い申し上げます。



かわねほんちょう

静岡県川根本町

川根本町は、平成17年9月に中川根町と本川根町が合併して誕生した町で、静岡県の中央部、大井川中流域に位置しています。面積496.72km²のうち、約94%を森林が占めており、本州唯一の原生自然環境保全地域を有するほか、南アルプス国立公園、奥大井県立自然公園を有しており、山岳景観、渓谷美、原生林等、優れた自然環境が古来より継承されています。



平成26年には、町域全体が南アルプスユネスコエコパークに登録され、平成27年には日本で最も美しい村連合に加盟するなど、自然と文化の共生による持続可能な発展を目指す取組みを進めています。また、当町は、日本有数の銘茶として全国に知られている「川根茶」の中心的産地であるほか日本唯一のアプト式鉄道や湖上駅、寸又峡、接岨峡といった温泉地など県内外から訪れる多くの人を魅了しています。

こうした豊かな自然環境や森林資源を活かし、古くから林業が盛んな地域でありましたが、長期的な木材需要の低迷、担い手不足など課題もあります。厳しい状況下ではありますが、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されるよう、森林整備に努めるとともに、大井川産材の安定供給体制の構築、木材需要の創出に取り組み続け、森林を守り育てていく「水と森の番人」としての責務を果たしてまいります。

静岡県川根本町の森づくり



本町の人工林の多くが伐期を迎え、資源として成熟していることから、計画的な伐採と適正な管理を推進するため、間伐、間伐材の搬出、作業道の開設、防護柵の設置などに補助を行っています。また、町と自伐林家を主体にFSC森林認証を取得し、「環境・社会・経済」に配慮した森林管理に取り組み、FSC認証材の需要拡大を目指しています。

令和3年度より森林環境譲与税を財源に森林経営管理制度に基づく事業に着手し、令和5度中に約30haの間伐を行い、森林の持つ多面的機能の増進を進めています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 間伐
- 【場 所】 川根本町 横草・小ザ沢・壺町河内 地内
- 【面 積】 2.92ha
- 【施業時期】 令和5年10月～令和6年1月



静岡県川根本町長 藪田 靖邦

川根本町長からのメッセージ

川根本町の森林整備に対し、「森とアースへのECO-プロジェクト」によりまずご支援をいただき、誠にありがとうございます。

令和4年度の台風15号や今年度の台風2号により、土砂災害、風倒木被害等の山地災害が多発し、私たちの町は甚大な被害を受けたことから、森林整備の重要性を強く感じているところです。大井川の水と豊かな森林を守る「森と水の番人」として誇りと責任をもって、自然環境の保全、適正な森林整備をしっかりと行い、川根本町にある豊かな自然と美しい景観を継承し将来へ繋げていくとともに、災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

今後ともよろしく申し上げます。



おお だい ちょう

三重県大台町

大台町は、三重県の中南勢地域の南西部に位置し、町内全域が『大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク』に登録された自然豊かな町です。面積は362.86km²と三重県内の町では最大で、その内93%を森林が占め、『大台ヶ原』（三重県最高峰、日本百名山）を源とする一級河川『宮川』が町の中央を東流し、宮川の源流部は『吉野熊野国立公園』に指定されています。『大杉谷』は国の天然保護区域でもあり、西の黒部、近畿の秘境とも呼ばれ、黒部峡谷とともに日本三大渓谷、日本の秘境百選の一つに数えられています。



宮川の源流域は、鎌倉中期以降は伊勢神宮の式年遷宮用木材を切り出す主要な「御杣山(みそまやま)」であり、美濃、木曾地域と並ぶ特異な存在として知られ、当時、切り出した木材は宮川を使って流送し、伊勢へ運んでいました。その後、1955~1965年頃(昭和30年代)の戦後復興期を全盛に木材の生産地かつ流通の拠点として林業と木材産業は繁栄してきましたが、近年は木材需要の低迷、過疎化や高齢化が進み、未整備森林の増加や林業従事者の減少が課題となっています。

現在は、次なる世代へ幸せな暮らしを引き継ぎ、『ユネスコエコパークのまち大台町』にふさわしい豊かな自然を守りながら、自然と人が共生するモデル地域に住んでいることに誇りに、「住んでよかった。ずっと住み続けたい。」と思える、将来にわたって活力がある持続可能なまちづくりを推進しています。

三重県大台町の森づくり



本町の森林のうち、植栽された人工林は約16,500ha(人工林率59%)であり、利用期を迎えた50年生以上の森林が55%以上を占めています。本町の基幹産業である林業の発展に努めるべく基盤整備を継続的に推進するほか、防災減災対策を目的として、従来の単一的にスギ、ヒノキを植栽する林業から、その森林の立地条件にあった樹種を植栽など、適地適木理論に基づいて事業を行っています。

木材の売上だけではなく森林から採取できる新たな中間林産物として、アロマ製品やきのこ栽培など新たな収入源の確保についても模索しているほか、森林が持つ二酸化炭素吸収ポテンシャルを用いたJ-クレジットを活かした植樹活動等の取組も進めています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 下草刈り
- 【場 所】 大台町菌イノタニ、大台町滝谷カガズリ
- 【面 積】 7.96ha、1.45ha
- 【施業時期】 令和5年5月～10月



三重県大台町長 大森 正信

大台町長からのメッセージ

このたびは大台町の森づくりに対して格別のご支援をいただきまして厚く御礼申し上げます。

本町は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す「生物圏保存地域」(日本での呼称:ユネスコエコパーク)として町全域が指定されています。ユネスコエコパークのまちとして、生物多様性の保全、水源の涵養機能、地球温暖化防止、土砂災害防止機能等、森林の公益的機能を十分に発揮するためにも適正な森林管理を推進していく必要があります。次世代に引きづく森づくりの実現に向けて今後も取り組んでまいります。



なが おか きょう し

京都府長岡京市

京都府南西部に位置する長岡京市は、京都・大阪の主要駅の間にある、面積約19.17km²のコンパクトなまちです。鉄道や高速道路、幹線道路等による交通アクセスに恵まれる一方、市域の約4割にあたる786haを森林面積が占め、市街地近くにも田園風景がひろがるなど、豊かな自然環境にも恵まれています。かつては約1,500年前に弟国宮、約1,200年前に長岡京の都が置かれ、中世以降も明智光秀の最後の戦い「山崎・勝龍寺城合戦」で明智軍が籠城した勝龍寺城が存在した等、様々な史実の舞台にもなりました。



地域の森林資源については、大きく人工林、天然林、竹林中心のエリアに分かれています。対象地のほぼ全てが民有林で、小規模森林所有者が大半のため、所有者による通常の管理のみでは人工林の維持や天然林の適正更新が困難です。また、長岡京市と周辺地域は全国有数のたけのこ産地として知られていますが、高齢化等で廃業する農家も多く、竹林の荒廃や拡大も問題になっていました。

こうした状況を打開すべく、平成17年6月に産官学民連携の「西山森林整備推進協議会」を設立し、参画者の協議を経て「西山森林整備構想」を策定しました。中長期計画に沿って一体的な森林整備を実施する等、森林経営管理法施行に先駆けて行政主体の取り組みを進めています。また、令和4年4月には、地球温暖化対策を推進し、豊かな自然環境を将来世代に引き継いでいくため、「2050年ゼロカーボンシティ」宣言を行いました。

京都府長岡京市の森づくり



前述の「西山森林整備推進協議会」での議論を基に整備方針を決定し、人工林、天然林、拡大竹林をバランスよく整備しています。人工林については、林道や作業道の整備がある程度進んでいるため、公共施設等で活用するための間伐材搬出や一定周期での保育間伐を実施し、天然林では落葉広葉樹林を中心とした生物多様性、水源涵養機能の高い森林に誘導するための施業を行っています。竹林については、森林との境界付近にある拡大竹をライン上に伐採するとともに、点在する放置竹林を皆伐し、樹種転換を図っています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 風倒木の面的処理
- 【場 所】 長岡京市奥海印寺、浄土谷地域(2箇所)
- 【面 積】 0.3ha
- 【施業時期】 令和5年11月～令和6年1月



京都府長岡京市長 中小路 健吾

長岡京市長からのメッセージ

前年度に引き続き、「森とアースへのECOプロジェクト」により、長岡京市の森林整備に対して格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、平成17年6月に森林所有者・企業・ボランティア団体・市民・行政・学識経験者でつくる「西山森林整備推進協議会」が発足し、同協議会が策定した「西山森林整備構想」を基に持続的な森林整備・保全活動に取り組んでまいりました。

今後も、森林の持つ多面的機能を将来世代にわたって継承するとともに、脱炭素社会の実現や間伐材利用による森林資源の循環に貢献できるよう努めてまいります。



いずもし 島根県出雲市

出雲市は島根県の東部に位置し、島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されています。東西約30km 南北約39kmの範囲に広がり、面積は624.32Km²であり、海、山、平野、川、湖と多彩な地勢を有しています。

当市は「神話の国 出雲」として全国に知られるとともに、出雲大社、荒神谷遺跡、西谷墳墓群などの歴史、文化遺産と、日本海、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然に恵まれた地域です。また、斐伊川と神戸川に育まれた豊かな出雲平野が広がる農業生産力の高い地域であり、商業集積も進み、各産業が調和した地域です。同時に出雲縁結び空港、河下港、山陰自動車道と環日本海交流の機能も担える交通拠点でもあります。

こうした中、森林については、市全体面積の約6割を占め、豊かな森林資源を活かした森林施業を行っています。また、厳しい冬の季節風から屋敷を守り、夏の日差しをやわらげる黒松を配した屋敷森である「築地松」が織りなす散居景観は、出雲地方独特の景観であり、全国に誇れる貴重な資産といえるものです。それらは四季を通じて絵のように美しい景観を作っており、何ともいえない風情があります。その築地松である黒松は出雲市の木にも指定されています。



島根県出雲市の森づくり



森林の適正な管理を行うため、市の公有林を中心に作業道を積極的に整備し、造林木の搬出と植栽を推進し、森林の再生を図っています。また、市産材の利用促進に向け、民有林を含めた市全体の木材生産及び消費の拡大に努めています。

今後はレーザー測量により把握した、収益性のある市公有林の売却・伐採を積極的に進め、その売上も活用して、二酸化炭素吸収量の増加や、風水害被害の防止につながる間伐や再造林を進める計画で、こうした新たな取組を、“伐採による青空と再造林による緑のサイクル”をイメージした「いずもの森ブルースカイ・グリーン計画」としてとりまとめ、「攻めの林業」への転換を促進し、林業振興・担い手の確保・育成を図っていきます。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 間伐、作業道開設
- 【場 所】 出雲市 佐田町一窪田地内
- 【面 積】 4.3ha(間伐)、1,197m(作業道開設)
- 【施業時期】 令和5年9月～令和6年2月



島根県出雲市長 飯塚 俊之

出雲市長からのメッセージ

出雲市の森林施策に対し「森とアースへのECO-プロジェクト」によりご支援いただきましたことを厚くお礼申し上げます。

林業振興・森林整備については、市産材の生産拡大と利用促進を図り「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業の実現を目指しています。また、ここ数年の豪雨災害では、土砂災害、風倒木被害など甚大な被害を受けたことからあらためて森林整備の重要性を痛感しています。このような水源の涵養、土砂の流出の防止や森林が持つ二酸化炭素吸収など森林の公益的機能が発揮できるような森づくりを推進し災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。



さ さ ぐ り ま ち

福岡県篠栗町

篠栗町は東経130度31分、北緯33度37分、福岡市内から東に12kmのところのところに位置します。九州の玄関口JR博多駅(福岡市)から電車で約15分のところに位置しながら、町の総面積38.93km²のうち7割が森林を占める緑豊かな町です。鉾立山・八木山・若杉山の峰々が町を囲むようにそびえたち、中央には多々良川が東西に流れ、その周囲に平地が開けています。交通アクセスが良好で、福岡市のベッドタウンとなっています。



また、篠栗町は弘法大師ゆかりの地として知られ、小豆島四国、知多四国と並び、日本三大新四国霊場として有名な霊場です。広大な景勝地の中に八十八ヶ所の札所があり、心の安らぎを求めて全国から多数の人々が参拝されます。さらに森の巨人たち100選に選ばれた「トウダの二叉」や「大和の大杉」など巨樹・巨木が点在する大和の森を有するなど、流れる時間を見つめてきた神秘性を各地で感じることができます。この歴史や遍路道、豊かな森林に新しい付加価値を付けた新たな事業を実施することを目的に、2009年に森林セラピー基地の認定を受けました。基地認定を受けて以降、心と身体への健康づくりを図るため、森の案内人による森林セラピー体験ツアーを実施してきました。

令和3年9月には、今日まで共存してきた篠栗町の豊かな自然を守り、後世に残していくため、町民や事業所とともに、二酸化炭素実質排出量の削減に取り組む方針として、「ゼロカーボンシティささぐり」を宣言しました。

福岡県篠栗町の森づくり



篠栗町の主要産業である林業において、町の北に位置する萩尾地区が中心的役割を担っていますが、従来は当該地域には狭小な林業作業道しか存在せず、豊富な森林資源を十分に利活用できていませんでした。地域再生計画に基づき、町道と林道の一体的な整備を進め、令和元年度からは国の地方創生事業を活用し、今年度完了予定となっています。

今後は新規林道を活用し、林業の振興と森林整備を促進するとともに、観光においては、地域に点在する豊富な観光資源へのアクセス改善により観光交流人口の増加を通じた地域の活性化を図ります。



福岡県篠栗町長 三浦 正

篠栗町長からのメッセージ

この度は、「森とアースへのECOプロジェクト」により、篠栗町の森林施策に対しご支援をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

当町では、町の財産である森林を守り育てるため、林道の整備、間伐や作業道の開設を推進し、後世に亘り持続可能な「もりづくり」を進めております。今後とも、この豊かな自然をまちづくりに最大限利活用しながら、『ゼロカーボンシティささぐり』として、地球環境保全に向けた低炭素社会の実現に取り組んでまいります。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 主伐
- 【場 所】 篠栗町大字萩尾(林道東原線沿)
- 【面 積】 2.21ha
- 【施業時期】 令和5年10月~12月

天星製油株式会社

所在地 静岡県浜松市浜名区新原3833-1

TEL 053-586-9911

FAX 053-586-9915

URL <http://www.tenboshi.com/>

令和5年度 全国オイルリサイクル協同組合

森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム 構成員

環境開発工業株式会社、日重環境株式会社、木幡興業株式会社
株式会社TOAシブル、株式会社和光サービス、株式会社朝田商会
株式会社太陽油化、株式会社パンオイルサービス、岐阜鉱油株式会社
天星製油株式会社、岩谷化学工業株式会社、株式会社サンエム、山陰興業株式会社
株式会社フチガミ、有限会社森商会、全国オイルリサイクル協同組合

本プロジェクトの推進を通して、
持続可能な開発目標(SDGs)への貢献にも寄与しています。



森とアースへのECO-プロジェクト事務局

公益財団法人北海道環境財団
北海道札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤・加藤ビル4階
TEL:011-218-7811 FAX:011-218-7812

プロジェクトHP



<https://www.heco-spc.or.jp/mori-earth/>